

3月6日から8日まで、インド・チェンナイ近郊の村で「アジア農村女性会議」が行なわれ、「権利、エンパワメントと解放」のテーマのもと、アジア21カ国から女性たちが集いました。この会議は、農村教育開発協会（SRED）の代表であるブルナド・ファティマ IMADR 理事が、ニマルカ・フェルナンド IMADR 理事長を含むアジア各国の NGO とともに企画したものです。日本からは部落解放同盟の女性部の代表4名が参加しました。ここでは参加者の声を紹介します（編集部）。

アジア農村女性会議に参加して

中川 法子(部落解放同盟福岡県連合会筑紫地区協議会)



キャラバンの模様



会議でスピーチをする岸田章子・部落解放同盟中央女性対策部長(手前左)



集会で「部落女性の解放を！ダリット女性の解放を！そしてすべての女性の解放を！」と英語で呼びかける筆者(中央)たち

今回、初めてアジア農村女性会議に参加するとともに SRED を訪問し、たくさんの経験・学習をさせていただきました。

3月7日、全体会で各国のスピーチが行なわれました。環境問題、内戦の問題……今までメディアを通してしか知らなかったことを痛感させられました。日本からは部落解放同盟の代表が部落差別についてスピーチをしました。

その後「ダリット女性とカースト」についてのワークショップに参加しました。輪になりダリット女性の経験や思いを聞きました。衝撃的だった話は、「グローバル化の中で家電製品などさまざまな物を欲しが家族のために、女性たちが悪条件でも残業しながら働き続ける。その結果レイプ事件が起こり、中絶をする女性たちが増加し、議員に問題提起しても企業からのワイロによって黙認され続けている」というものです。この話からダリット女性がさまざまな差別と直面していることが感じられ、また直接聞くことで、より彼女たちの思いを感じることができました。

8日の午後には、グローバル化などに異議を唱える数十台のバスのキャラバンやデモ行進を行ないました。すべての参加者がそろってまでキャラバンのバスは1台も出発することではなく、日本と違い、時間に追われるよりも「人を1番に考える」、そういった「当たり前」のことが「当たり前」にできる人びとに感心しきりでした。太鼓を叩くなどさまざまなパフォーマンスでアピールしながら走行しました。SRED のリーダーたちは声をからしながら、各ポイントにある多国籍企業の前で訴え続けました。その周りでビラを配布する方もいました。ビラを受けとり真剣に読む人もいて、少しでも訴えに耳を傾け「おかしい」と気づく人が生まれればと思いました。

こうしたキャラバンを続け、集会場の近くに着きました。そこから会場までの道のりをデモ行進しながら叫び、訴え、前へ前へと進みました。

会場に着くとすでにたくさんの参加者がイ

ンド各地から到着していました。国ごとにそれぞれの思いを壇上で訴えました。日本からは私たち部落解放同盟の3人がアピールしました。貴重な体験をしたとともに、「差別を受け・差別と闘う」という同じ立場の私は会場との一体感を感じた時でもありました。こうしてアジア農村女性会議は終わりました。

翌日、SRED を訪問しました。SRED の敷地は思ったより広く、いろいろな果物が無農薬で作られ、洋服や装飾品・染め物などの作業場がありました。たくさんの完成品があり、すべて手づくりなことに驚きました。

すぐ近くにダリットの家があり、SRED のメンバーが家庭訪問を行っていました。その家の幼い子は心臓の手術が必要で、手術代を支払う余裕がなかったのですが、SRED に集まった寄付金で手術ができたそうです。無事に手術も成功し、今は退院していますが、調子が悪くなっていないかメンバーが定期的に家へ行き話をしているとのことでした。

SRED の説明をしていただき、リーダーたちも、生い立ちを含め今の活動について話してくださりました。自分たちが支援している子どもデイケアセンターや、マタマ^(注)廃止の運動についても詳しく聞くことができ、充実した時間を過ごせました。

日本とインドの生活はまったく異なり、今まで「当たり前」と感じていたことがどれほど当たり前ではなかったか、そういう生活ができる裏で、安い賃金で保障もなく働き続ける人がいる、と頭でわかっていたつもりでも、直接話を聞くことで改めて考えさせられました。

そして、「差別と闘う」という同じ目標に向かって運動しているすべての人と団結し、国内外問わずそれぞれの差別を知り、支え合い、1日でも早く全世界の差別撤廃を実現できるよう、仲間を増やし、私自身たくさんの経験を積まなくてはと強く感じました。

今回このような経験ができたのもたくさんの人に支えていただいたからであり、感謝したいと思います。(なかがわのりこ)

(注) ダリット女性に有害な影響を与える、性的搾取をとまなう慣習